

## 高津高校とハンドボールの思い出

高校 18 期 (1966 年卒) 久岡 敏博

昭和 38 年 4 月に高津高校に晴れて入学！と言っても入学式当日は、正確にはまだ雪深い新潟県立妙高病院の大部屋の病室にて入院中。

右足の脛の部分に 3 月 30 日にスキーで複雑骨折して、鉄板を当てての接骨手術が、丁度完了したところで、麻酔が切れてウンウンうなっているころ。

と言うのも、当時はスキーが日本中で大流行して、高校入試がひと段落しての、憧れの一週間の民宿の手伝いアルバイトを兼ねての旅行が、なんと情けない、病院での入院生活。

4 月も中旬に入ってから初登校、それも予想だにできなかったギプスに松葉杖をつけて、持ちにくいカバンを持ってのイヤに目立つ格好での登校の日々。

病院で寝ているだけで身長が月に 2～3 センチも伸びる成長期の春の出来事でした。

松葉杖を返して、やっと普通に歩けたのは梅雨時の 6 月ごろだったと思います。

クラブ活動は親父がやっていた関係で「バスケットボール」が良いかなと思いつつ、お昼時に親切にもパンを貰ったのが、ハンドボールの部室前での出来事。

そんなこんなで、同級生のお誘いもあって、同じようなボール遊びの感覚で「ハンドボール部」へ入部。

一年生の最初の夏休みが驚愕の事態に！机やイスを片付けて蒸し暑い教室に布団を敷いての一週間、いきなり地獄の合宿がスタート。

こんなしんどいことが、こんなきつい練習が世の中にあるのか、と驚く暇無く、毎日毎日ヘトヘトの連続。

日にちの感覚もだんだん無くなってきた頃、毎日の練習の最後にシメとして行われる「キーパー練習＝キーレン」（これがなかなか壮絶で、部員皆で休む間無くボールを投げるので、毎日毎日キーパーは泥だらけでグッタリして終了）を見て、だれ一人、キーパーの指名にしり込み、戦々恐々する日々。

何人か途中で帰った（退部）数名の仲間も出たので、キーパー指名のウワサが飛び交う中、一年生のキーパー指名に誰が当たるかとの落ち着かない教室の寝床での日々。  
.....

苦しかった夏の合宿も、何とか一年生 7 人の「侍」が残り、合宿完遂！

- ・ 東中(カッチュ)：体力温存・要領型のサイドに強い速攻プレーヤー(中央大)
- ・ 大野(-シユ)：ひ弱でなかなか入らないまじめな 45 度プレーヤー(横浜国大)
- ・ 佐藤(ムケリ)：素直でゴツゴツ努力型サイドプレーヤー(阪大)
- ・ 広瀬(ヒツト=物故)：怒りっぽいヤケクソ型センタープレーヤー(市立大)
- ・ 為広(タ)：無口でモクモク型フィールドプレーヤー(同志社)
- ・ 縄田(オヤマ)：優しい目線の女性型フィールドプレーヤー(府立大)、
- ・ 久岡(ヒサカ)：大声で脅かす明るいゴールキーパー(関学)

遂に最終日にキーパー指名を受けてしま

い、キーレンと兎跳びの毎日が続き、何度もクラブを止めようかと思案しつつも、決断できずにズルズルとやり続けた自分でした。

今、再会しても、あまり多くを語らない同級生、皆んな自分のことで精一杯であったことを思うと、他を助けられなかった苦さと、何とか乗り切った達成感と誇りとがゴチャゴチャに入り混じった青春。

他人がミス（パス&キャッチ）したことで絞られる（個人集中特訓？）時間が自分にとっての唯一の休息。

そんなイッパイ・イッパイの状態、仲間に援助、気配りできないジコチュウに陥った辛い思いもかすめる夏合宿。

そんな中、声を出して平気でやってる上級生を神様の様に感じたのは、私だけではなかったと思います。

上級生の南原さん、佐藤健二さん、キーパーの松永さん、若林さん、今中さん、永井さん、吉田さん、みんな優秀で勉強も良く出来た世代で、頼もしい強い存在でした。

キーパーの松永さん（チョウ）には、得意なところを一箇所作って誘い込めと、教えてもらって、一所懸命に「ヒッカケの下」を練習したのを覚えています。

とに角、試合に勝ったとか負けたとか、ライバル寝屋川高校や堺工業、都島工業との試合も殆ど記憶がありません。

私にとっての高津ハンドボール部の日々は、自己鍛錬期間の塊みたいなもので、試合での出来事は、レギュラーで使ってもらいながら、殆ど憶えていないのが不思議なほどです。とに角、苦しい練習の毎日だったことが残っていて、2年の夏合宿では、現在のOB会長の川上君が、最終日にぶつ

倒れたのを介抱して、家に送り届けたのを思い出します。

そんな合宿最終日の「校歌斉唱」は、涙声で顔をクシャクシャにした「青春譜」です。

練習の苦しさは、今も昔も変わらないと思いますが、ここぞ！という時の粘りやパワーは、意識してギリギリまで自分を追い込んでいかないと、相手との戦いの中で勝利することが、難しいことは事実の様です。

自らそのギリギリまで追い込んだ仲間同士がチームワークすることで生まれる成果は、攻撃、防御を問わず、誇らしいもので、結束が一気に高まります。

高津高校時代のハンドボール部活動は楽しかったか？と、自問自答すれば、夏の合宿での自分との戦いに終始し、試合に勝ったとか負けたとかよりも印象深く、青春のこの時期は自分自身の自己鍛錬の期間のような気がします。

特に、二年生の時の夏の合宿に入る前日、同期の何人かで見えた「ジャイアンツ長島物語」で、フラフラになってボールを追う長島の特訓の姿が、ゾ～として暗い気持ちで合宿に入ったのを憶えています。

それでもハンドボールを、どうして好きになったのか、大学では何かしなければと思いつつ、一浪して入った関学でもやっばりハンドボールをするしかなかったのか、辛い辛い練習としごきの「青春」＝ハンドボールだった自分に、今では悔いは無しです。

これから高津のハンドボール部が、更に飛躍しつつ、存続を続けてもらえることは、大変嬉しいことですし、OBとして少しでもその継続に力になれば幸いに思います。

現役の皆さんの夫々の自己練磨も含めて、 を願っています。  
高津ハンドボール部としての大いなる活躍

